

## ◇公共事業関係費等の推移について

年末に令和4年度政府予算案が閣議決定されました。公共事業関係費の推移等が公表されていますので以下の資料を添付します。ご覧ください。

- 農業農村整備事業（NN）関係予算の推移
  - 公共事業関係費の推移（一般会計ベース）
  - 公共事業関係費の推移（S58年度～）
  - 同上（表形式）
  - 公共事業関係費…分野別に令和3年度当初予算との比較表
- ※いずれも財務省の資料です。

## ◇今後の農業農村整備の展望について

「新たな土地改良長期計画を踏まえた今後の農業農村整備の展望について」、農林水産省のホームページに公表されています。

「新たな土地改良長期計画」は、令和7年度までの今後5年間の土地改良事業の指針となるものであり、昨年3月に閣議決定されています（山土建協通信第43号で概要をお知らせ済）。これを踏まえ、12月6日に開催された食料・農業・農村政策審議会 農業農村振興整備部会において、以下の5つの項目に沿って今後の農業農村整備の方向性が議論されています。その際の資料を添付しますのでご覧ください。概要は以下のとおりです。

### 1 情報化施工の視点

- ・建設業界においては、高齢化等による人手不足が急速に進行。特に熟練者を含む建設機械オペレーターの不足が深刻化。
- ・ICTと3次元化されたデータを活用する情報化施工を導入することにより建設現場の生産性を向上させ、多様な人材を呼び込む魅力ある職業を目指す。
- ・情報化施工の導入により作業時間の大幅な縮減、施工品質の向上、作業の安全性の確保が図られる。

### 2 スマート農業の将来像の視点

- ・自動走行農機の開発・普及とともに、その機能を十分に発揮させるため長辺長を十分とった大区画化や一般の交通に供しない耕区間等移動通路の整備を検討する。
- ・ICTを活用した水管理の実現により労働時間・用水量の削減、収量・品質の安定化を実現する。

### 3 「みどりの食料システム戦略」推進の視点

- ・揚水機の更新において省エネルギー化を推進する。（本県の大町溝土地改良区の事例）

### 4 流通・販売・マーケティングの視点

- ・情報通信技術を活用し、ほ場に端末を設置して熟練農業者の栽培技術をデータ化・可視化することにより、若手農業者への技術の継承を図る。
- ・情報通信ネットワークを整備し、農産物流通の効率化・需要創出を図るとともに、中山間地域等での獣害対策や福祉等他分野への活用を図る。

### 5 農村地域の居住環境整備の視点

- ・流域治水対策としての田んぼダム の取組み、ICTを活用した自動給水栓の遠隔操作による「スマート田んぼダム」による安全かつ確実な効果の発揮を図る。

★農林水産省のホームページには当日の議事録も公表されており、以下からご覧いただくことができます。

[農業農村振興整備部会：農林水産省 \(maff.go.jp\)](http://maff.go.jp)

第4回（令和3年12月6日）